

「次世代郊外まちづくり」は 更なるステージへ



横浜市と東急株式会社が共同で進める まちづくりの包括協定を更新しました

次世代郊外まちづくりは、横浜市と東急が 2012 年 4 月に締結（2017 年 4 月に更新）した協定に基づき、郊外住宅地の課題を産学公民の連携・協働で解決していく、住民参加型・課題解決型のまちづくりです。

2022 年 4 月、活動をさらに深化させ、広く沿線へ展開していくために協定を更新（協定期間 5 年間）しました。今後は、10 年間の活動の成果を踏まえ、「田園都市で暮らす・働く・楽しむ」をテーマに、地域のつながりや自然などの地域資産を活かした取組を進め、自由で豊かな、新しい郊外住宅地のライフスタイルを提案していきます。

こんなことを実施していきます！

1 「暮らす、働く、楽しむ住宅地」へ

住民 × 学校 × 行政 × 企業など多様なつながりを通し自由で豊かなライフスタイルを提案していきます

2 モデル地区から沿線展開へ

モデル地区での活動で得たノウハウや成果を踏まえ、地域独自の人のつながりや自然などの地域の資産を活かした取り組みを広く沿線へ展開していきます

3 4 つの地域循環を創出

「①脱炭素などの環境」「②世代を超えた交流」「③地域住民の人材スキル」「④経済の循環」の仕組みづくりを目指します

「次世代郊外まちづくり」が 目指すまちの姿

さらに多様なつながりとともに

コミュニティ・リビングの考え方のもと、交流拠点がまちに点在することで、新しい「つながり」が生まれ、住民や地域の企業等の交流や活動も活発になることが期待できます。

また、住民や企業の想いやスキルを地域に活かすことで、様々な方がまちに関わり、暮らしもより豊かになっていくと考えています。それらを踏まえ、次世代郊外まちづくりは、自由で豊かなライフスタイルの実現に向け、取り組みを進めていきます。



コミュニティ・リビングとは？

歩いて暮らせる範囲に、買い物、福祉、医療、子育て、コミュニティ活動など、地域に必要な機能を適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方で、次世代郊外まちづくりを進める上で、主要な理念として位置付けています。

2022年度のプロジェクトを一部ご紹介します！

1

次世代郊外まちづくり 「トークフェスタ」の開催

田園都市線沿線の住民 × 学校 × 行政 × 企業が新しい暮らし方・働き方・楽しみ方を考え、体験するトークセッションやワークショップを実施します。

2

地域による 地域課題解決の仕組みづくり

住民のスキルで地域課題を解決する「プロボノ講座」を引き続き実施します。また、地域による地域課題解決のための担い手づくりや持続的な活動の仕組みづくりを検討します。

「次世代郊外まちづくり」の これまでとこれから

－ 10年間の歩み －

2012年から始まった次世代郊外まちづくり。これまでの10年間の取り組みを振り返り、どのような歩みを進めてきたかをまとめてみました。

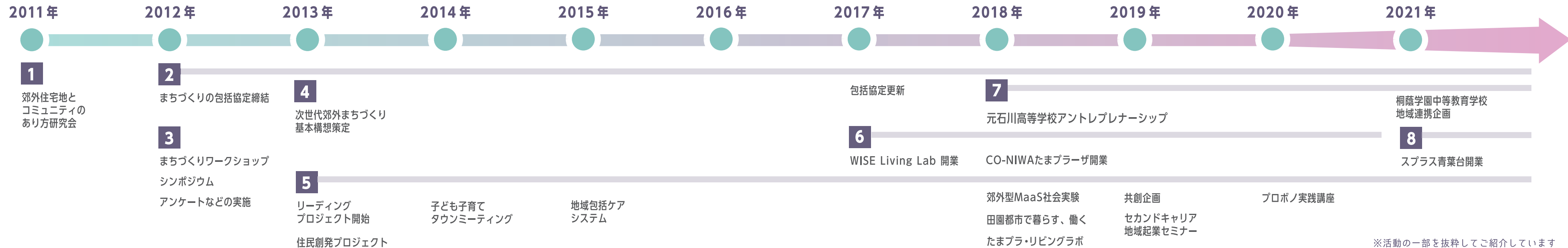
活動当初の「課題を共有する」から現在の「活動を広げる」まで8つのステップで進めてきました。

年表とともに各ステップでどんな取り組みを行ってきたのか、ポイントとなったプロジェクトなどを紹介しています。

それぞれのプロジェクトなどについては、「次世代郊外まちづくりHP」にてご確認ください。

STEP

- 1 課題を共有する
- 2 チームを立ち上げる
- 3 みんなを巻き込む
- 4 ビジョンをつくる
- 5 活動をつくる
- 6 場をつくる
- 7 活動をつなげる
- 8 活動を広げる



※活動の一部を抜粋してご紹介しています

1 課題を共有する (～2012年度)

「郊外住宅地とコミュニティのあり方研究会(2011年)」を立ち上げ、少子高齢化やコミュニティの希薄化、インフラの老朽化など郊外住宅地の現状と背景を把握し、見えてきた課題をみんなで一緒に共有しました。



2 チームを立ち上げる (2012年度)

産学公民連携でまちづくりを進めるため、2012年4月に横浜市と東急株式会社が「次世代郊外まちづくりに関する包括協定」を締結。共創でまちづくりを進めるチームの礎をつくりました。



3 みんなを巻き込む (2012～2013年度)

「たまプラーザ駅北側地区(美しが丘1～3丁目)」をモデル地区に選定し、まちづくりワークショップやシンポジウム等の開催などを通じて、地域の方々と協働したチームづくりを行いました。



5 活動をつくる (2013年度～)

活動方針に基づき、毎年「リーディングプロジェクト」を策定し、取り組みを進めています。(一部ご紹介します)



住民共創 2013～2014年度
住民創発プロジェクト
(地域活動の支援)



子育て 2014年度～
子ども子育てタウンミーティング
(保育関係者の情報交換の場)



健康 2013～2015年度
地域包括ケアシステム
(在宅医療と介護の連携)



移動 2018～2019年度
郊外型 MaaS 社会実験
(移動ニーズの多様化への対応)



企業共創 2018年度～
たまプラー・リビングラボプロジェクト
(企業と連携した地域交流促進など)



働き方 2018年度～
田園都市で暮らす、働くプロジェクト
(セカンドキャリア地域起業セミナー、プロボノ)



活動支援 2019年度～
共創企画
(地域の課題解決と価値創造の支援)

4 ビジョンをつくる (2013年度)

関わる全員が同じ目的を持ち、同じ方向に進んでいくために、共通のビジョンとなる「次世代郊外まちづくり基本構想」を策定しました。構想には、目指すまちの姿である「コミュニティ・リビング」や活動方針などを示しています。



6 場をつくる (2017～2018年度)

コミュニティ・リビングの具現化に向けて、モデル地区内に「WISE Living Lab」(2017年5月)、「CO-NIWA たまプラーザ」(2018年10月)が誕生。それぞれまちづくりの活動拠点として活用されています。



WISE Living Lab



CO-NIWA たまプラーザ



8 活動を広げる

モデル地区で培ったノウハウやネットワークを活かし、青葉台駅前の青葉台郵便局を活用した新しい地域の交流拠点「スプラス青葉台」が生まれました。今後も田園都市線全体へ活動を広げていきます。



コミュニティラウンジ・ワークスペースなどの就労の場



地域交流拠点として多様なイベントを開催

7 活動をつなげる (2017年度～)

WISE Living Lab では、地域のまちづくり活動へのアドバイスを行なっています。また、まちづくりの活動を次世代につなげるため、さまざまな学校と連携し、子どもたちと地域をつなげる試みを行っています。



元石川高等学校
アントレプレナーシップ



桐蔭学園中等教育学校
地域連携企画

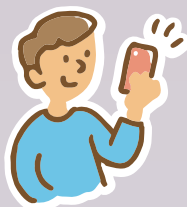
まちへの興味をふくらませよう♪



まちづくりに参加できる取り組み等をご紹介します。
ご自身の関心ごとや活動内容などに合わせて、ぜひご参加ください。

まずは情報を キャッチしよう

メルマガ会員になって、まちづくりの最新情報を受け取ろう



次世代郊外まちづくりの取り組みに関する情報は、ホームページからご覧いただけます。
また、ホームページよりメルマガ会員にご登録いただいた方には、連携する団体・施設などのイベントのお知らせや活動のご報告などの最新情報をお届けします。まちへの興味をふくらませる第一歩として、ぜひご登録ください。



まちづくりの場 行ってみよう

まちづくりの活動拠点に行ってみよう、活用してみよう

WISE Living Lab

共創スペース（予約制）
はまちづくりの活動の場
として利用可能。
たまプラーザ駅徒歩7分



スプラス青葉台

まちの交流拠点、就労の
場。地域と連携した多様
なイベントを開催。
青葉台駅徒歩3分



CO-NIWA たまプラーザ

多世代交流の場として
マルシェや地域活動を
体験できる。
たまプラーザ駅徒歩5分



活動をはじめよう

地域の課題解決や価値創造につながる企画・取り組みをはじめよう

共創プロジェクト

広く沿線内の住民、団体、学校等が取り組む、地域課題の解決や価値創造につながる企画の連携や場所の提供などをサポートする「共創プロジェクト」を実施します。随時、企画を受け付けていますので、詳細や応募方法はホームページにて、ご確認ください。

共創プロジェクトなどまちづくりに関するご相談や次世代郊外まちづくりの活動のご紹介はCO-NIWA たまプラーザ・コミュニティコア内「まちの活動紹介プロジェクト」にて実施します。（月1回程度）



次世代郊外まちづくり
WISE CITY



<https://jisedaikogai.jp/>
Web サイトはこちら



横浜市



SDGs未来都市・横浜



横浜市は2018年6月に、SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市「SDGs未来都市」と、その中で特に先導的な取組をする「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。
「環境を軸に、経済や文化・芸術による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現」をビジョンに、SDGs未来都市の横浜型大都市モデルに挑戦しています。